

【イエスが「神の子」キリスト、すなわち救い主であることは何によってわかる】のでしょうか。今日の箇所は、これについて語られる主イエスがどんな証しによるのかを説明して下さっている所です。

証言と言っても、いくら自分で「そうだ」と言い張っても意味がなく、自分以外の誰か2人以上が必要です。主は自分には2人(or 2つ)以上の証しがあると告げ、その1人に洗礼者ヨハネを引き合いに出します。しかしそれとて、自分がキリストであることの証明にはならないのであり、自分を証しするのは実に父なる神ご自身であると、そう言われたのでした(36～37)。イエスは、「父」なる神がご自分で証ししてくださるのだと教えているのです。

この直接的な証しは、「父が、私について証ししてくださる」(37)と、原文では“完了形”で記されています。すなわち、動作そのものは過去に行われたことですが、その効果と影響は今までずっと生きて続いていることが表わされています。今も働いて、効果をし続けているのです。その「業」そのものこそ「私について証し」しているのだと、主イエスは語られるのです。

私たちがイエスこそキリスト・神の子であると知り得るのは、外的な物理的な意味での証拠や証言によって説得されるといった方法によってではなく、それは《イエスによって救われる》という術の他ないのです。イエスは本当に神の子か否かは、信じる者の歩みの中で、その真実性が明らかにされていくことに他ならないからです。救われた人の歩みを見れば、すなわち主イエスがまことにその人の中で救い主として働いておられる「業」を見れば、一目瞭然なのです。